

MAEBASHI FOCUS

国際交流員 (CIR) ニュースレター



洪水に見舞われた故郷

まず、私の住むテキサス州に最後に大きな影響を与えたハリケーンは「ハリケーン・ベリル」でした。しかし、ハリケーンではあったものの、私がこれまで経験してきた本当に大規模なものに比べると、少し雨が強い程度にしか感じられませんでした。

本当に大きなハリケーンはまったく別物です。故郷の人なら私が何を言っている言いたいのかすぐに分かると思いますが、ご存じない方のために説明すると、2017年にテキサス州南東部とルイジアナ州を襲った「ハリケーン・ハービー」はカテゴリー4（カテゴリー5が最高）の非常に強力なハリケーンでした。私は当時高校生で、覚えている前回の大きなハリケーンは約10年前の「ハリケーン・アイク」でした。

新学期が始まったばかりだったこともあり、学校の休校が決まったときは正直少しうれしかったのを覚えています。しかし、ハリケーンが近づくにつれて空はあっという間に灰色に変わり、風雨はどんどん強くなりました。そして間もなく、私の住む地域だけでなく市内のほとんどの場所で停電が発生しました。

さらに運の悪いことに、私はその1か月前に足首を3か所骨折していました。そのため、8月の蒸し暑い時期に停電した家の中で過ごさなければならなかっただけでなく、自由に動き回ることもできませんでした。私にできたのは、予報で「1000年に一度」と言われた大洪水によって自宅が浸水しないことを祈りながら待つことだけでした。

実際、降り続く雨によって道路はあっという間に川のようにになりました。人々はモーターボートやカヤックを使って家々の間を移動していたほどです。幸いにも私の家は浸水を免れましたが、水は玄関先まで迫り、本当にぎりぎりでした。しかし、近所の多くの家はそうはいきませんでした。あくまで自分の感覚ですが、5軒に1軒ほどの家が深刻な浸水被害を受けたと思います。被害が特に大きかった地域では、ボートやヘリコプターによる避難が行われました。

灰色だった空が夜の闇へと変わっても、激しい雨音は止むことがありませんでした。私の家は2階建てでしたが、骨折した足首では階段の上り下りが大変だったため、仕方なく1階で寝ることにしました。そして、「朝起きたら家の中が水浸しになっているのではないかと不安を抱えながら眠りにつきました。

こうした状況はおよそ5日間続きました。そして嵐が過ぎ去った後、知っている町はすっかり姿を変えていました。木々やごみ、ソファなど、あらゆるものが洪水によって流され、

皆さん、ハウディ!

6月も楽しく過ごされているでしょうか。ここ数週間は暑い日が続いていましたが、梅雨入りとともに少し涼しくなり、過ごしやすくなってきましたね。

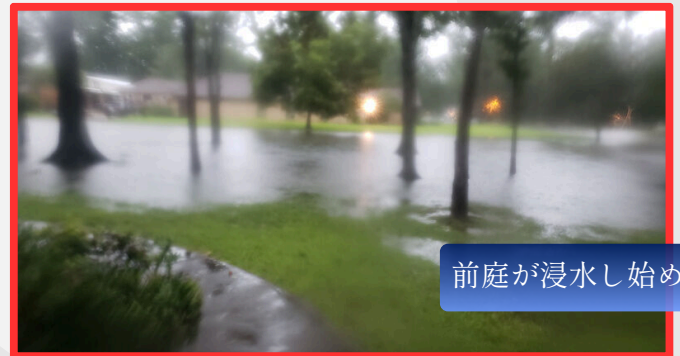
数週間前には、台風第23号チャンミーが日本に接近し、少し心配な状況になりました。予報では影響が懸念されていましたが、幸いにも群馬県は大きな被害を受けずに済みました。この出来事をきっかけに、これまで何度もハリケーンに見舞われてきた私の故郷のことを思い出しました。そこで今回は、私自身のハリケーン体験についてお話ししたいと思います。



私の高校

道路のあちこちに散乱していました。多くの家はそのまま放棄されました。

通っていた高校も深刻な浸水被害を受けました。1階部分の床はすべて撤去され、その状態が何か月も続きました。床材を剥がしたあとに残った接着剤のせいで、コンクリートの床を歩くたびに靴がベタベタしていたことを今でも覚えています。



前庭が浸水し始めた時

その後、多くの人々は生活を立て直しました。しかし、隣町のポートアーサーなどは完全には元に戻りませんでした。もともと経済的な苦境にあった町でしたが、洪水によってその状況はさらに悪化しました。多くの住民が私の町を含む周辺地域へ移り住み、そのまま戻ってこなかったのです。

このような経験から、天気予報をこまめに確認し、自分の住んでいる場所が洪水想定区域やその他の災害リスクの高い地域に該当するかどうかを把握しておくことはとても大切だと思います。

群馬県は比較的自然災害の少ない地域ですが、「備えあれば憂いなし」ですね。皆さんもぜひ日頃から防災について意識してみてください!